

## (5) 意味の変わった漢字……転注文字

### 漢字の意味は時代とともに変わっていく

漢字は、象形・指事・会意・形声の四つのどれかでできています。象形・指事が基本で、会意・形声はその応用です。

しかし、その意味や使い方は、漢字ができたころといまとは、かなりちがっているものもあります。

たとえば、「山」「川」「月」「火」などは、五千年前もいまも変わりませんが、「楽(ラク、ガク、たのしい)」は、楽器の意味から、音楽の意味になり、安楽の意味に変わっています。

このように、できたときの意味と変わった使い方をしている漢字を、「**転注文字**」といいます。車は**転**じて動き、川は**注**いで流れ、ひところにいないという意味でつけた名前です。

### 一つの字はいくつもの使い方がある

よく考えてみますと、変化のないと思われるような文字やことばでも、案外、いくつもの使い方をもっているものです。

「山」だって、「山場を**むか**える」といういい方や、「山を張る」という使い方があります。「手」になりますと、「手が足りない」「手を貸す」「聞

き手」「手づまり」「手が上がる」「手を抜く」「手を切る」「手がたい」「手が込む」「手を焼く」「火の手」「ひしゃくの手」など、いろいろな使い方がきりもなくあります。

ですから、一つの使い方しかないという漢字があったら、そのほうがおかしいくらいなものです。しかし、使い方がいくつかあったとしても、まるっきり縁のない使い方はしないはずですから、その変化のしかたに注意して、これを覚えることがたいせつです。